

難治性慢性痛患者のパーソナリティ評価～MMPI を用いて～に関する研究

研究分担者 西田 圭一郎 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科生体機能再生・再建学講座
整形外科 准教授

研究協力者 鉄永 倫子 岡山大学病院医療安全管理部/整形外科 助教

研究要旨

痛みリエゾン外来にコンサルトを受けた難治性慢性痛患者のパーソナリティを MMPI を用いて検討した。難治性慢性痛患者では検査の妥当性が低い患者を認めた。また健常者と比較し難治性慢性痛患者では心気症・抑うつ・ヒステリー尺度で有意に高値を示し、元々これらの気質を有している可能性が示唆された。パーソナリティを多面的に評価することが可能である MMPI は有用な評価ツールであると考えられる。

A．研究目的

難治性慢性痛患者には多職種関わった集学的治療が推奨され、当院でも2012年4月より多角的集学的外来（痛みリエゾン外来）を開設し治療にあたっている。これまで我々は、痛みリエゾン外来は一定の効果がある一方でドロップアウト症例、成績不良例も存在することを報告してきた。当院ではこのように異なる経過を示す要因を精査するために、パーソナリティを多面的に捉えることが可能である Minnesota Multiphasic Personality Inventory (MMPI) を使用している。しかしながら、本邦では MMPI による評価は現在の所あまり行われていない。そこで本研究の目的は難治性慢性痛患者のパーソナリティを検討することである。

B．研究方法

2014年5月～2017年2月までに痛みリエゾン外来にコンサルトを受けた難治性慢性痛患者のうち治療開始時に MMPI を施行できた58例（男性21例、女性37例）を対象とした。受診時年齢は50歳（16～83歳）であった。以上の対象を、MMPI を施行することに同意を得た健常人22例（男性15例、女性7例）と比較検討した。

（倫理面への配慮）

この研究は倫理委員会の承認を受けている。参加者からは同意の上アンケート実施した。

C．研究結果

妥当性尺度では、健常人は全例検査の妥当性が高かったが、難治性慢性痛患者は検査の妥当性が高かった症例が49例、低かった症例が9例であり、両群間で有意差を認めた ($p < 0.05$)。また、10の臨床尺度では、第1尺度（心気症）は健常人 54.5 ± 12.1 、難治性慢性痛患者 73.5 ± 13.1 であり、第2尺度（抑うつ）は健常人 53.7 ± 12.3 、難治性慢性痛患者 66.7 ± 11.1 であり、第3尺度（ヒステリー）は健常人 55.6 ± 9.6 、難治性慢性痛患者 68.5 ± 12.5 といずれも難治性慢性痛患者が有意に高値であった ($p < 0.05$)。

D．考察

MMPI はパーソナリティを多面的に評価することが可能である。一般的に慢性痛患者は抑うつ傾向にあると言われるが、本研究の結果では、難治性慢性痛患者は元々心気症、抑うつ、ヒステリーの気質を有することが示唆された。

E．結論

慢性痛患者の性格に慢性痛の症状が加味され病態が複雑化、難治化しているものと考えられた。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G . 研究発表

1.論文発表

- 1) Tetsunaga T, Tetsunaga T, Nishida K, Tanaka M, Sugimoto Y, Takigawa T, Ozaki T. Short-term outcomes of patients being treated for chronic intractable pain at a liaison clinic and exacerbating factors of prolonged pain after treatment. J Orthop Sci 2017;22(3):554-559.
- 2) Tetsunaga T, Tetsunaga T, Nishida K, Tanaka M, Sugimoto Y, Takigawa T, Takei Y, Ozaki T. Denosumab and alendronate treatment in patients with back pain due to fresh osteoporotic vertebral fractures. J Orthop Sci 2017;22(2):230-236.
- 3) 西田圭一郎, 小橋靖子, 鉄永倫子. 関節リウマチの痛みと治療アプローチ. Journal of Musculoskeletal Pain Research 2017;9(1): 7-14.

2.学会発表

- 1) 鉄永倫子. 多職種連携による痛みリエゾン外来. 第16回更年期と加齢のヘルスケア学会・第5回日本サプリメント学会学術集会 2017:22. 第16回更年期と加齢のヘルスケア学会・第5回日本サプリメント学会学術集会. 2017.10, 東京
- 2) 鉄永倫子, 西田圭一郎, 鉄永智紀, 瀧川朋亨, 杉本佳久, 田中雅人, 尾崎敏文. 難治性慢性腰痛に対する集学的治療は fear-avoidance model に影響するか. 日本整形外科学会雑誌 2017;91(3):S804. 第90回日本整形外科学会学術集会. 2017.5, 仙台

H . 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

なし